

## 審議会等の会議の概要の記録

会議の名称	令和7年度第2回 甲州市高齢者虐待防止・地域見守りネットワーク運営委員会
開催日時	令和8年2月27日(金) 13時30分～15時00分
開催場所	塩山保健福祉センター
議題	(1) 権利擁護について (2) 認知症対策について
出席委員	丸田一穂委員、宮原健一委員、古屋俊明委員、守屋光啓委員、矢崎聡委員、大木美由喜委員、久保田正春委員、木下洋和委員、三浦優委員、和田功委員、名取建治委員 欠席：高野浩彬委員、大澤伸委員、吉田省吾委員
会議の公開又は非公開の区分	公開
会議を一部公開又は非公開とした場合の理由	
傍聴人の数	0人
審議概要	別紙のとおり
事務局に係る事項	介護支援課 高齢者支援担当 TEL:0553-34-5434
その他	※ 上記以外で審議会等が必要と認める事項

## 令和7年度第2回

### 甲州市高齢者虐待防止・地域見守りネットワーク運営委員会

日時 令和8年2月27日(金)午後1時30分～午後3時00分

場所 塩山保健福祉センター

出席 丸田・宮原・古屋・守屋・矢崎・大木・久保田・木下・三浦・和田・名取【委員】

介護支援課 古屋・雨宮・横瀬・依田・内田【事務局】

地域包括支援センター 小澤・鈴木・丸田

欠席 高野・大澤・吉田【委員】

#### 1.開会

#### 2.課長あいさつ

#### 3.委員長あいさつ

#### 4.議題

##### (1)権利擁護について

##### ①高齢者虐待対応事例について

委員)

事例の最後の結果は事件というわけではないのか。確認したい。

事務局)

サービス内容として、ショートステイを利用されており、在宅に戻る方向性になっていた。ショートステイを利用中に体調を崩されて緊急入院となり数日後にお亡くなりになった。

委員)

この事例のように見つけることができたのは施設を利用していたからだと思う。なかなか周りからは見つからないと思う。やはり、周りの方に匿名でもそのようなことがあったら連絡してもらい、逆恨みがないように匿名でも連絡してもらえるのが望ましい。

事務局)

ケアマネジャーからの虐待通報事例が1番多いが、今年度は近所の方からの通報、何とかしてあげてほしいというご相談があった。家の中で騒いでいる、怒られているような声が聞こえるという内容。通報した方の名前は聞かず、後はこちらで対応するという返事で電話を終えている。通報者の個人情報を守るように対応している。

委員)

救急の現場で虐待の事例があるかないかという判断は非常に難しい。119番通報があり、現場に行きその状況で、救急隊が、関係者の方や本人から、怪我の状況を聞き取ってそれが嘘か本当かという判断を現場でするのは難しい。病院に着いて、先生とのやり取りの中でまた違った話が出てくる場合もあるので、そのような所でもしかしてというような状況があったりするのかもしれない。

委員)

自身も認知症の母親がいて介護していた経験があるが、母親の介護は男性からすると排泄の

介助や着替え等と難しい。やり取りの中でどうしてもイライラしてしまったり介護疲れだったり時間をかけてやっているのに、そのような気持ちが働いて罵声を浴びせてしまうこともあるだろうと、この事例を通して感じた。

委員)

この事例の方は基礎疾患があったのか、また、内出血が見られた際に頭の検査はされたのか。

事務局)

認知症で受診をされていた。幻覚、幻聴のような症状があり、一度専門医にも受診をされたが、その時点では内服の必要性はなく、症状が悪化したら再度受診ということになっていた。内出血に関しては受診せず、経過観察としていた。

委員)

身体的虐待と判断しているが、その段階で警察に相談とまらないのか。

事務局)

今回は緊急性や経済的背景を考慮し介護サービスを増やすなど、支援を通じて見守りをするという判断とした。緊急性が高い場合には、措置入所で分離するということもある。庁内の会議で、リスクアセスメントシートに則り判定をしていくというプロセスにはなっているが、警察に相談するかの線引きは難しい。例えば、地域包括支援センターで訪問した時に、ご家族から訪問を拒否される、こちらが危害を加えられそうだと予想される場合には警察に相談して一緒に訪問するといった協力を仰ぐ場合もある。

## ②意思決定支援の研修会について

委員)

この研修はやっていただいて良かったと思う。日々、本人がどうされたいか、どうなりたいかというのは非常に悩むところではある。1年経つとおっしゃることが変わることもある。常に本人と意思疎通を続けて関係性を築くことが大事だと思う。このような研修は継続的にしていただけるとありがたい。

事務局)

研修会参加者からは、生活していく中での安全面を優先してしまい、認知症の本人の意見よりもご家族や支援者の意見を優先してしまうという話もお聞きした。本人の意思を尊重していくにはどうしたら良いか、このような研修は継続していきたい。

## (2)認知症対策について

委員)

30代、40代の子育て世代は忙しく認知症について知る機会、学ぶ時間がなかなか取れないのではないと思う。約半数が「認知症について正しく理解していると思わない」と回答している。それがこのアンケート結果に出ているのではないかと感じた。小学校、中学校、高校、大学へ認知症キャラバンメイトで行ったことがあるが、認知症キャラバンメイトの存在は大きいと思う。

事務局)

甲州市においても、塩山高校生に認知症サポーター養成講座を実施し、若い世代にもできるだけ理解をしてもらい、声かけをしてもらえるようにと活動をしている。30代、40代はなかなか認知症の方と関わる機会も少なく、学ぶ機会も少ない部分もある。このような機会に少しでも興味を持ってもらい、情報を得てもらおうところから始めていければと思います活動している。

委員)

自身の経験として、認知症の身内に対し後悔するような言葉をかけてしまい、申し訳なさを感じることがあった。このような葛藤をどう乗り越えるか、認知症サポーター養成講座等への参加を通じて知識を深めていきたい。

事務局)

認知症は身内であるとまた違った対応の難しさがある。身内の介護者の心の葛藤に対しても、支援が行き届くよう活動を展開していきたい。

委員)

認知症サポーター養成講座を受講される年齢層はどうなっているのか。今後若い世代へのアプローチも検討していただけるか。

事務局)

今年度も3月には塩山高校2年生を対象の講座を予定している。小中学生に関しては今後計画していきたい。

委員)

認知症の親を介護する際に家族がどのような介護をしたらいいか、認知症になった場合、どのような症状が出るとか、介護の仕方がわからないのに親の介護が始まってしまう。だんだん自分の言うことが伝わらなくなる。排泄の世話をしなければならぬ、ご飯も食べさせてあげなければならぬ、自分は仕事をしながら介護しなければならぬ。介護の仕方がわからない、学んでいない中で現実が来て対応しなければならぬ状況に陥る。そのような家族に対しての講座があってもいいのではと感じた。

事務局)

認知症サポーター養成講座では認知症の症状からどのように接したらいいのかという内容も行っている。講座の依頼があった方々の希望に合わせて内容も変更している。家族に関しては悩み事があれば、ケアマネージャーを通してでも良いし、その都度、相談に乗れることであれば回答させていただければと思う。生活上、本人への対応がどうしたらいいかわからない、本人から暴言、暴力があり辛いという状態に関しては、認知症初期集中支援も行っている。そのような難しい事例は専門の先生方に助言をいただきながら、支援をしていくこと取り組んでいるので、相談いただければ対応できるようにしていきたい。

委員)

介護サービスの利用者の特徴を踏まえながら、ご家族がどんな苦勞をしているのかいうことを聞きながらアドバイスしている。大変な場合には専門の病院の受診につなげている。人それぞれ症状が違うこともあり、ご家族も急に対応せざるをえなくなって心配とか苦勞もされていると思う。何かありましたらご連絡くださいという形で対応している状況である。

委員)

介護を終了して20年経った。現状を知るためにこの会議以外にも参加させていただいている。認知症カフェに参加すると、初期集中支援に該当するような方が相談に来ている。そのような場を利用すれば認知症というものがわかる。学ぶ場所はいろいろある。場所についての情報が得られればできるだけ参加するようにする。本人と接する家族はそこから「どういう症状が認知症か」そういう学びの機会は結構得られるのではないかと。

事務局)

甲州市には認知症カフェは1箇所あるが、そちらには介護を経験したご家族がボランティアとし

て参加しており、ご相談に乗ってくれる場所にもなっている。ケアマネージャーも参加しており、相談に乗ってくださる場、気軽に来ていただけると場となっている。広報への掲載、チラシ等もお配りさせていただいているので、機会があったら参加していただければと思う。

委員)

認知症の介護は本当に予備知識がないまま急に始まる。そして介護が始まった時にどこに相談すればいいのかわからないという人がいることが1番の問題なのだと思う。

事務局)

相談の窓口を知らないという方に相談窓口があるというところから知っていただければと思う。親の介護をする世代にどのように投げかければわかりやすいか今後も検討していく。困った時に調べればすぐ出てくるようなものを作ることができればと思う。およっちょい祭りの時にもアンケート答えてくださった方にティッシュやチラシも持って帰っていただいているが、その中に地域包括支援センターの内容を入れて周知はしている。今後も周知の方法は検討していきたい。

委員)

家族が介護保険の申請をどこにすればいいのかわからなかったということがあった。介護が必要になった時にどこに相談すればいいのかという周知が重要で、そこは認知症と切り離れた方がいいと思う。介護する人たちから見ると一番不安なのは認知症かどうかではなく、介護をしなくてはいけないということであるので、それぞれ介護ということを前面に出していく方が良い。電話での相談も仕事をしていて時間が取れないということもあると思う。30代、40代となるとある程度ITに強いので、Google フォームやQRコードみたいなものを作る。QRコードを読み込んでもらいチェックリストの質問と連絡先を入力してもらい、あとはこちらから折り返す。そのようなツールを作るのはどうか。

事務局)

高齢者の方々、認知症の方々に目を向けていたが、30代、40代の年齢の方々はそのようなツールも活用できるかと思われる。貴重なご意見として今後検討していければと思う。

## 5.その他

事務局)

3月7日の午後に甲州市地域みんなで支え合いフォーラムにおいて、認知症についての理解を深めるためのイベントを行う。お配りしたチラシの写真に出ている老夫婦が主人公のドキュメンタリーになっており、90代の母がアルツハイマー型の認知症を発症されて、90歳を超えた父がその介護をするという様子を、娘である監督が撮影したものとなっている。身近にある話題、どの家庭にも起こりうる認知症の方の介護というところを捉えたドキュメントになっており、一般の方にも自然と理解されやすいような内容と思うのでぜひ周知にご協力をいただければと思う。

## 6.閉会(副委員長)

高齢化社会がますます進み1人住まいの世帯も多くなっている。地域社会の繋がりの低下も言われており、地域高齢者の福祉推進がますます重要となってきている。この運営協議会での議論連携を深めて、さらに高齢者福祉の充実を図っていければと思う。